野菜現地情報

旭甘藷研究会が視察研修を実施

令和５年７月２８日(金)に鉾田市の旭甘藷研究会の会員１０名が、消費者に求められるカンショの販売動向や新品種の特性などの知識を深めるため青果物バイヤーとの意見交換会および視察研修を行いました。

まず、合同庁舎にて、オンラインで「イオンリテール株式会社　野菜カテゴリーバイヤー」から、カンショの販売動向や実需者の求める商品および海外の販売形態の状況などの話を聞きました。研究会員からは、「世代別の買い方に違いはあるのか」や「量販店が産地に求めることは何か」など多くの質問があり、活発な意見交換が行われました。

次に、つくば市に移動し、農研機構　中日本農業研究センターにおいて、農研機構育成のカンショ新品種「あまはづき」「ゆきこまち」「ひめあずま」の食味や収量および貯蔵性などの特徴や気象条件の違いによる栽培適期などの説明を受けました。その後、当産地の栽培品種との違いや新品種の病害虫抵抗性について活発な意見交換が行われました。

最後に行った焼芋専門店 芋やす 土浦本店では、定番の焼き芋から芋づくしのかき氷などたくさんの品揃えの中から気になる商品を実食し、カンショがどのように加工されているか楽しみながら学びました。

鹿行農林事務所経営・普及部門では、今後も旭甘藷研究会の活動を引き続き支援していきます。

鉾田地域農業改良普及センター(成長産業)